

令和 2 年度研究推進計画

1 学校教育目標

すべてのことに全力で取り組む生徒の育成
「一生懸命勉強する」「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成

- めざす学校像 (1) 未来・社会に開かれた学びの場
(2) 深い学びと感動がある学びの場
(3) 生徒・保護者の思いをくみ取り、温かい人間関係を築く場
(4) 三者（学校、家庭、地域）協働による子育ての場
- めざす生徒像 (1) 学び（授業、行事、部活動）に感動し、人に感動を与えられる生徒
(2) 美しいもの、一生懸命な姿に感度する生徒
(3) 未来を見据え、主体的に課題を解決する生徒
(4) 思いやりの心を持ち、さわやかな挨拶ができる生徒
(5) 学校行事で、しっかり歌って、歩ける生徒
- めざす教師像 (1) 授業、行事、部活動で勝負し、生徒とともに感動できる教師
(2) 生徒ひとり一人の良いたところを認め褒めて自己有用感をはぐくむ教師
(3) 教育のプロとして、絶えず指導方法を改善し、組織力を発揮できる教師
(4) 服務規律を順守し常識ある社会人、地域の一員である教師

2 前年度の研究

(1) テーマ

学習の「深まり」と「つながり」を実感する授業づくり
～「自己学習」の育成と「ペア・グループ学習」の工夫を通して～

(2) 成果と課題

【成果】

○教員の授業力向上に向けて

- ・全教職員が1回公開授業、授業研究会を3回実施した。
- ・本時の目標と本時のまとめのパネルを各教室に設置し、本時の目標を明確に示して、その目標に沿った評価規準を設定する指導案作りを行った。
- ・意図的、計画的に「ペア・グループ学習」を授業に取り入れ、生徒が学び合い、つながりあい、深まり合うことができる授業づくりを行った。
- ・授業において、その内容を学ぶことの必要感を示し、生活とのつながりや学ぶ意義について考えさせることができた。
- ・生徒の活動の様子をとらえた事後研究会を行い、授業における「深まり」と「つながり」について教師同士で話し合い、授業力向上に努めた。
- ・公開授業参観を研究推進委員のメンバーや教科の教師、空き時間の教師で参観することとした。
- ・教科部会を定例化し、授業改善を図っていくよう教科内で月に2回協議した。
- ・学校評価の生徒アンケートにおいて、「授業はたのしくわかりやすい」という問いに肯定的な回答をした生徒が、30年度は76.6%であったのに対し、31年度は78.5%と、約2ポイント向上した。「先生はいろいろ工夫して教えてくれる」という問いに肯定的な回答をした生徒は30年度は85.7%であったのに対し、31年度は89.3%と、3.6ポイント向上している。「授業内容でわかりにくいことについて、先生に質問しやすい」という問いに肯定的な回答をした生徒が、30年度は69.7%であったのに対し、31年度は69.7%と同数であった。
- ・生徒理解を深められるようスクールカウンセラーによる傾聴スキル等の研修を行った。
- ・授業の生徒アンケートを実施（6月）し、生徒の意見を参考に授業改善を図った。
- ・Q Uを年に2回実施（6月・11月）し、6月の結果をもとに、Q Uを生かした生徒指導、学級経営について、指導主事を招いて研修を行った。
- ・道徳の教科化に合わせ、立命館大学 牧崎幸夫 先生を講師として招聘し、評価方法について研修を行った。
- ・全クラス（教室）に、ミニホワイトボードとペンのセット（9セット）を設置し、グループ学習を活発に行えるようにした。
- ・全教室にプロジェクターと書画カメラを設置し、ICT環境を整備した。

- ・自主研修会「プチ研」を放課後に実施し、指導力向上に努めた。

○学力向上に向けて

- ・テスト前に、7時間目30分間の「学習タイム」(5教科)を実施した。
- ・各学年ごとの「学習の手引き」の改訂を行い、より有用なものにした。
- ・土曜学習会の実施・・・子どもサポーターや保護者ボランティアによる学習会を行った。

○幼小中の連携の推進に向けて

- ・夏休みに合同研修会を行った。
- ・生徒に、地域の行事(夏祭り・餅つき大会)などに参加するよう松中地域ボランティアリーダー制度の活用を促した。

【課題】

- ・学校評価の生徒アンケートにおいて、最も否定的回答が多かったのが「授業内容でわかりにくいことについて、先生に質問しやすい」という問いであり、昨年度と同じである。当てはまると答えた生徒は、2.9%向上しているが、より質問しやすい環境を作るためには、授業における生徒と教師の関わりを向上させていく必要がある。
- ・「生徒指導が機能する授業を実施している」という問いに対し、当てはまると答えた教師が14%であった。授業に対して自信をもって取り組めていないことのあらわれとなっている。そのため、今年度の改良した研究テーマにそって、授業者自身も「授業が楽しかった」と思える授業ができるように研修を重ねる必要がある。
- ・令和2年度は、さらに教職員にイメージしやすい研究テーマにする必要がある。
- ・公開授業を見学する教師が少なかった。事前に時間割を調整するなどして、参観者を増やしていくことが大切である。授業者が、公開授業の日時を直前に決めると見学者も予定を立てにくいいため、一週間前には授業の日程を連絡するようにしたい。
- ・本時の目標達成のための手立て(工夫)が、その教師ならではのものに未だになっていない。他の教師の授業を観たり、研究会に積極的に参加して、自分の授業に新しいものを取り入れる意欲と工夫が必要である。
- ・「本時の目標」と「本時のまとめ」が形骸化しているので、もう一度、一時間の授業で生徒へ身につけさせたい力を明確化させる。

3 本年度の研究

(1) テーマ

「わかる」「できる」授業の追求 ～ふり返りを大切にし、学習意欲を高める授業づくり～

(2) 研究仮説

学力向上	授業のねらいを明確にし、ふり返りを行うことで確かな学力を身につけると、主体的に学ぶことができる。
自己有用感	ペア・グループ学習等を通して、他者とのコミュニケーションをとることで、自己有用感を高めることができる。
信頼関係	生徒アンケートを実施し、授業を見直すことで生徒と教師の信頼関係がある学びの場を作ることで、学習意欲の向上につなげることができる。

(3) テーマ設定の理由

平成 31 年度全国学力・学習状況調査で、全国平均との相対的な比較において、次のような課題が明らかになった。

「自分にはよいところがある」という質問に対する肯定意見は、全国平均が 74.1 %であったのに対し、松崎中学校は 74.2 %とほぼ同数であった。しかし、そのなかで「当てはまる」と答えたものは、全国平均が 29.0 %に対し、松崎中学校は 23.9 %と下回っている。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という質問に対する肯定的意見は、全国平均が 81.5 %であったのに対し、松崎中学校は 73.6 %と下回った。そのなかで、「当てはまる」と答えたものは、全国平均が 31.3 %に対し、松崎中学校は 22.7 %と下回っている。「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」という質問に対する肯定意見は、全国平均が 72.8 %であったのに対し、松崎中学校は 69.9 %と下回った。そのなかで「当てはまる」と答えたものは、全国平均 28.3 %に対し、松崎中学校は 24.5 %と下回った。以上の結果から、本校の生徒の自己有用感が低いことが明らかとなった。

昨年度、「深まり」と「つながり」の両輪で授業を組み立てていったが、何ができればテーマに

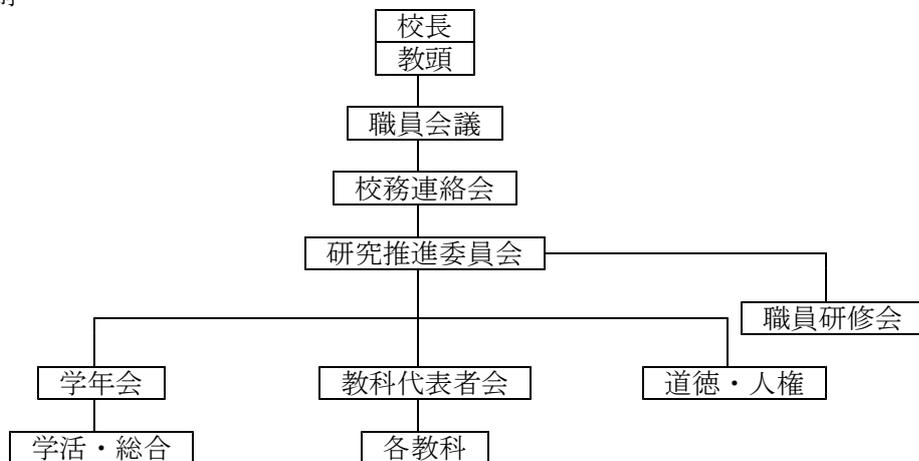
近づくのか不明瞭であった。そこで、新たな研究テーマを設定していく必要があると考え、講師 京都大学大学院 盛永俊弘 先生と相談し、教師にアンケートを取り、研究推進委員会を中心に検討を重ねた。そのなかで、「既習した内容が定着していないこと」や「家庭学習の不足」があがった。より確かな学力をつけるために授業のふり返しを行う必要を感じた。

そこで、授業の中で定着を図り、ふり返しを行い、学ぶことへの達成感を感じさせ、生徒と教師の信頼ある学びの場を設けることで、生徒の自己有用感を高めれば、学力向上につながるという仮説を立て、今年度の研究テーマを設定した。

(4) 具体的な実践内容

- ① 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業
 - ペア・グループ学習等を取り入れた生徒の主体的な学び、対話的な学び、深い学びをめざす（アクティブ・ラーニング）。
- ② 本時の目標の明確化とふり返りの場の設定
 - この授業で何を学ぶか、授業後にどんな力が付いたかを明確に示す。そして、学んだ内容のふり返りの場を設け、評価につなげる。
- ③ 授業者ならではの「見せ場」の設定
 - ・「わかる」「できる」達成感を実感させる授業
 - ・相互に質問したり意見交換できる授業
 - ・個々の生徒に対応した授業
 - ・わかりやすくするためのスモールステップを仕掛けた授業
 - ・個々を認める、褒める場面のある授業
 - ・授業の終わりに振り返り評価する授業
- ④ 全教師が公開授業を実施
 - すべての教師が年に1回、授業を公開する。
- ⑤ 授業研究会の実施
 - 学期に1回、研究授業と事後研究会を実施し、授業力向上と鑑識眼（授業を観る眼）の向上をめざす。
- ⑥ 各教科ごとに統一した取り組みの実施
 - 教科部会を行い、ふり返りの仕方と学習意欲を高める取り組みの共通理解を図り、教科で統一した取り組みを行う。
- ⑦ 生徒授業アンケートの実施
 - 学期ごとに生徒授業アンケートを行い、生徒の意見を参考に授業改善を行う。

(5) 研究推進体制



(6) 研究推進計画

	授業研究会	校内研修会
3月 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ、年間研究計画案 ・公開授業計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の手引き」改訂
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業実施開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会 (生徒指導、特別支援教育に関する共通理解) ・第1回研究授業指導案事前検討会
6月 5日 12日	<ul style="list-style-type: none"> ・QU実施 ・第1回研究授業、事後研究会 ・生徒授業アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会 (事後研究会)
7月		<ul style="list-style-type: none"> ・夏季研修会計画
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小中合同研修会 ・校内研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会 (幼小中合同) ・校内研修会
10月		<ul style="list-style-type: none"> ・第2回研究授業指導案事前検討会
11月 6日 18日	<ul style="list-style-type: none"> ・QU実施 ・第2回研究授業、事後研究会 ・生徒授業アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会 (事後研究会)
1月 27日	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回研究授業、事後研究会 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回研究授業指導案事前検討会 ・校内研修会 (事後研究会)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のまとめ ・来年度の計画 	

- ・教科部会 (月2回)
- ・プチ研 (適宜実施予定)